

平成 26 年 11 月 27 日

教育学部長 殿

FD 委員会委員長

福田 亘博

### 学生による授業評価及び授業点検シートによる教員の授業改善に関する報告書

学生による授業評価は、アメリカで 1960 年代後半より行われているようである。我が国では 1974 年に国際基督教大学（ICU）が最初に導入し、1984 年に東海大学が導入しており、一部の教員により実施された記録が残っている。その後、各大学とも授業評価の必要性を検討し始め、中教審の答申もあり、今ではほとんどの大学が導入・実施している。

本学部において、平成 26 年度教育学部設置と同時に学生による授業評価を実施することとした。一方、学生による授業評価の実施方法について、大学内の PC を利用して簡便に学生がアンケートに回答できるように学内データベース（Web システム）上にシステムを構築した。また、コメント欄も設け、個別の意見も書き込めるようにした。なお、今年度は授業評価アンケートは前期に開講された講義すべてについて回答出来るように設定したが、報告書は専任教員のみを対象として整理した。

#### 1. 学生による授業評価について

学生による授業評価のアンケート項目は、別紙に示すように、1. 学生の受講態度について 3 項目、2. 授業内容について 6 項目、3. 授業の進め方について 4 項目、4. 担当教員について 3 項目、5. その他 2 項目とした。自由意見欄について授業改善につながるコメント欄を設けた。

また、今回の学生による授業アンケートでは、授業改善につながる項目について、充分：4 点、ある程度した：3 点、ある程度しなかった：2 点、しなかった 1 点とし、総合評価点としてポイント制にした。教育学部において、学生による成績について GPA の導入しているが、教員の GPA とも呼べる評価を行うことにした。なお、4 点が最高点である。

その結果、学生による授業評価の総合評価点は、忍ヶ丘教養 1：3.74、教育原理：2.24、心理学概論：3.83、国語：3.70、算数：3.70、体育 3.87、音楽：3.87 であった。

各講義に対するコメントとして、一部紹介すると：

- ・忍ヶ丘教養 I では、いろんな先生に担当してもらった授業でしたが、それぞれの先生が論文の資料だったり、またパワーポイントを使う上での発表の仕方だったりなどとても理解のしやすい授業だった。国語：授業の資料が毎回しっかりしていて、授業の手助けになり理解がしやすかった。自分が教師になったときに役立つような知識がいっぱいあった。
- ・心理学概論：私たち生徒分かっていなさそうな時は、納得するまで説明を詳しくしてくださるところが良かった。丁寧で分かりやすかった。
- ・国語：授業の資料が毎回しっかりしていて、授業の手助けになり理解がしやすかった。自分が教師になったときに役立つような知識がいっぱいあった。
- ・算数：インターネットとかで調べると難しい内容も、バスケットボールや具体的な例などを用いていたのでとても理解しやすかった。また話し方も上手だったので参考にしたいなと思う授業だった。
- ・体育：手作りでの機材づくりや理解しやすいパワーポイントがあったので、生徒のためにしっかりとした授業を展開しようという強い気持ちが伝わり、またペア学習を重視した授業がとてもためになった。
- ・音楽：音楽未経験者でしたが、コードの歌とかダンスを交えた授業だったので、楽しく音楽に触れられ、音楽に対する意欲が増す授業だった。

などのコメントがあった。

一方、評価点が低評価であった教育原理では、「授業のポイントが分かりづらかった」、「シラバスの説明が不十分」などのコメントがあり、次学期に向けて授業の工夫・改善が必要と考えられた。

## 2. 教員による授業点検シートについて

学生による授業評価では、一般的にアンケート項目について学生がマークし、教員の授業における問題点等が指摘され、報告書として取りまとめられる。従って、授業改善に関する教員個人の PDCA サイクルの観点から、教員が授業評価報告書を読んで次学期に指摘点を改善することが望まれるが、必ずしもスムーズに改善につながらない。従って、本学部では学生による授業評価結果をうけて、教員個々が PDCA サイクルによる授業改善の観点から、確実に行わせるために、「教員による授業点検シート」を導入した。

授業点検シートでは、別紙に示すように講義科目名、授業の方法・工夫、成績評価法や

シラバスに記載した授業計画の達成度、学生の学習状況及び「学生による授業評価」結果から次年度改善すべき点があれば、これについてどのように考え、改善するかを明記するようにした。これらの結果を記載した報告書をすべて公開することとした。

その結果、ほとんどの授業について、学生は高評価点を与えていた。その一方で、教員によっては、アンケート項目をそれぞれ解析し、問題点として取り上げ、次学期の授業改善につなげる方法を提示している。

以上のように、教育学部が今年4月にスタートし、学生による授業評価及び専任教員による授業点検シートを作成し、授業改善を図ることを目的として実施し、報告書として取りまとめた。一方、授業参観による教員間の相互評価システムも導入・報告したが、より厳しい指摘がある講義科目もあった。今後、これらの3つの評価システムを組み合わせ、総合的に評価し、評価点をベストティーチャ賞の選考に使用し、またより良い授業改善システムを構築することにした。

以上